

# おっぱいだより

54号

新潟市民病院母乳育児推進委員会 平成31年1月

明けましておめでとうございます。今年もおっぱいだよりをよろしく申し上げます。今月のおっぱいだよりでは、風疹、予防接種についてお話したいと思います。



## 風疹について



今年度は、近年と比較して風疹が流行した年となりました。近年は100～300人/年であった罹患患者数でしたが、2018年の風疹罹患患者は2917人、2019年1月中旬までの風疹罹患患者は207人となっています。

風疹に罹患すると主に発熱、発疹、リンパ腺腫脹等の症状が出ますが、小児の場合、通常あまり重くない病気です。しかし、免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群と総称される障がい（心疾患、難聴、白内障など）を引き起こすことがあります。**風疹のワクチン接種は、先天性風疹症候群の予防において重要なのです。**

妊婦健診で風疹の抗体価が低いと指摘される人の割合は20代前半で20%、20代後半で24%、30代前半で16%、30代後半で12%、40代前半で16%、40代後半で19%存在します。

風疹含有ワクチンは生ワクチンのため、妊娠中に接種を受けることはできません。また接種した後は2ヶ月間妊娠を避ける必要があるとされています。そのため、これから妊娠を希望されている女性は風疹の抗体価を調べ、必要であれば風疹含有ワクチンを受けておくことをお勧めします。

また、2017年度の調査では、成人男性は30代後半の12%、40代の23～18%、50代前半の24%が風疹抗体を持っていないということが明らかとなっています。これは、風疹の予防接種が1995年以前は女子中学生のみを対象に行なわれていたことに起因します。2018年の風疹患者報告の中心もこの年齢層の成人男性となっています。そのため、妊娠を希望している女性・妊婦の周囲の人もワクチン接種を受けておくことが重要となります。

主にアジア及びアフリカ諸国では、依然として風疹罹患率が高いです。風疹にかかった（検査で診断された）ことがない方が海外渡航される時には、あらかじめ風疹の予防接種歴を確認し、風疹の予防接種を2回受けていない場合、又は接種歴が不明の場合には予防接種をしましょう。

新潟市では、条件はありますが、妊娠を希望する女性とその夫・同居家族に対し、風疹の抗体検査と予防接種助成をしています。生まれてくる赤ちゃんのためにも、自分が風疹にならない、人にうつさない対策をとっていきましょう。

MR(麻疹風疹混合)ワクチンの定期接種時期は、  
1歳時と小学校入学1年前の計2回です。

・NIID 国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/700-idsc/2131-rubella-doko.html>





## 赤ちゃんの予防接種について



赤ちゃんはお母さんのお腹の中にいるときに、お臍を通じてお母さんからたくさんの病気に対する免疫を受け継いでいます。しかし、お母さんからの免疫はずっと続くわけではありません。病気の種類によっては、数か月で失われてしまうものがあります。そのため、赤ちゃんを病気から守るため、免疫機能が減少してしまう時期や、感染症にかかりやすい年齢、かかってしまった時に重症化しやすい年齢を考慮して予防接種の時期が設定されています。下の表は0歳児に必要なワクチンと接種時期を示しています。

ワクチン	出生直後	6週	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月～11か月
Hib (ヒブ) 定期 不活化			①	②	③					
小児用肺炎球菌 定期 不活化			①	②	③					
B型肝炎 定期 不活化			①	②					③	
ロタウイルス 任意 生	1価		①	②			※生後24週まで			
		5価			③		※生後32週まで			
4種混合 定期 不活化				①	②				③	
BCG 定期 生							①			

■ 定期接種の推奨期間
 ■ 定期接種の接種可能な期間
 ■ 任意接種の推奨期間
 ■ 任意接種の接種可能な期間

みてわかるように、赤ちゃんのワクチンは生後2ヶ月からスタートします。そして半年間で6～7種類、15回以上になります。ワクチンの種類によっては、前のワクチンから時間をあけないと受けられないものもあります。逆に、同時接種できるものもあるので、早めに計画を立てて、効率よく予防接種をしてあげることが大切です。予防接種の記録は母子手帳に記載する欄があります。就学時健康診断の際や、海外に行く時に必要な記録となるのでワクチンを受ける際は母子手帳を忘れずに持っていきましょう。

また、ワクチンには「定期接種」「任意接種」があります。定期接種だけ受けていれば大丈夫と思われがちですが、任意接種であっても、万が一病気にかかった時に赤ちゃんに重い後遺症が残ってしまうことがあります。任意接種のワクチンもしっかり受けて、赤ちゃんを病気から守ってあげましょう。

- ワクチン.net : <http://www.wakuchin.net/schedule/baby.html>
- KNOW・VPD! : <http://www.know-vpd.jp/index.php>

風疹については、23号のおっぱいだよりでもとりあげていますので、見てみてください！

